

詩編 第63編 3節

「あなたの恵みは、いのちにもまさるゆえ、私のくちびるは、あなたを賛美します。」

いのちにもまさることがあります、と歌います。いや、いのちにもまさるゆえ、と歌います。いのちにもまさるものを発見した者からの不思議な歌です。いのちにもまさる、あなたの恵みをリアルに体験しながらの賛美です。

いのちにもまさと歌うからには、いのちが脅かされ、その瀬戸際に立つ者の言葉だろうと思う。いのちの危うさのギリギリで放つ言葉、それも賛美です。苦境にある身だからこそ気づかされる真実です。順風満帆なときには思いもしないことが湧き上がり、明らかにされることがあります。そのひとつが、ここではいのちの重みです。重いのちではあるが、他方のいのちの軽さ、儚さに直面します。

さらには、このいのちの重さと儚さの現実において、私のくちびるから賛美が生まれます。賛美の源は、あなたの恵みです。この恵みに在れば、たとえいのちの存亡が風前の灯火であったとしても、なお賛美の言葉が私のくちびるから放たれるのです。この賛美の言葉は、いのちの重さと儚さのすべてをご存じのあなたを知る者から生まれます。あなたが私のいのちです。それが恵み。